

学習内容報告書 フォーマット

学校名	兵庫県姫路市立家島小学校
授業者	全教職員

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

家島の海を知ろう! Step1 海にふれる

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科 (単元を実施する教科を全てお書きください)

総合的な学習の時間、生活科、特別活動、学校行事

1-4. 単元の概要

家島の海を核とした海洋教育プログラムは、3か年の計画で推進していくこととし、初年度は「家島の海を知る」一年、次年度は「家島の海を探る」一年、そして最終年度を「家島のうみを語る」一年と位置付けた。

「家島の海を知る」1年目として、海を知るため児童が体験活動を通して「海にふれる」体験を行った。体験したことを基に、「海から学ぶ」「海でつながる」という段階で以後の学習をすすめる。

「海にふれる」体験活動

- 海の安全指導 (7月21日) 協力: B&G 家島海洋センター  
学習を始めるにあたり、海とともに生きる児童にとって、最優先される海の安全指導を校区内の浜辺で行った。また、箱眼鏡を用いて海中の生物観察を実施した。
- 海洋アクティビティ体験 (8月20日) 協力: B&G 家島海洋センター、家島漁業協同組合  
カヤック体験やSUP体験、漂着ごみの回収活動、魚掴み体験を行った。
- 漁業体感学習 (10月2日) 協力: 坊勢漁業協同組合  
底引き網漁の見学、仕分け体験、施設見学、稚魚の放流体験を行った。
- 魚さばき体験 (11月25日) 協力: 兵庫県漁業協同組合連合会  
アジの3枚おろしに挑戦した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、播磨灘に浮かぶ家島群島のうち主要島である家島と採石業の作業場が多く所在する男鹿島を校区にしている。家島の人々は、海運業・漁業・採石業等、過去千百年以上も海での仕事を受け継いできている。児童は、地域の行事に積極的に参加するなど、自分たちの住んでいる「家島」が好きである。しかし、校区内に魚釣りや磯遊び、海水浴ができる恵まれた環境にあるにも関わらず、体験が少なかったり、生まれたときから海や魚を目にしたりにしているため、海の生物や環境のありがたさをあまり享受できていない。体験活動や調べ学習を通して、ふるさと「海」に対する愛着を深め、ふるさと家島を誇りに思い、ふるさと家島の未来に関心を持ち続け、行動できる児童を育成する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・ふるさと家島を誇りに思い、大切にしていこうとする子
- ・自分達が住んでいるふるさと家島に対する愛着を深め、ふるさと家島のために何ができるかを考え、行動しようとする子
- ・地域の産業の現状と課題を知り、その解決に向けて考える子
- ・生涯に渡り海とつながり、ライフワークを楽しもうとする子

1-7. 単元の展開（全14時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の安全指導</li> <li>準備体操と諸注意</li> <li>海の安全指導</li> <li>海の中の観察（砂浜）</li> <li>砂浜清掃とお宝さがし（漂着物）</li> <li>海遊び</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症予防としてこまめな水分補給を呼びかける。</li> <li>・力を抜いて水に身をゆだねることで浮くことができる。</li> <li>・漂着物の多さに目を向けさせるとともに、どんなゴミが多いかを考えさせる。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身を守るために適切な行動を取ることができる。</li> <li>・プラスチックゴミが多いことに気づき、自分事の問題としてとらえることができる。</li> </ul> <p>【外部連携】</p> <p>B&amp;G 家島海洋センター</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋アクティビティ体験</li> <li>準備体操と諸注意</li> <li>カヌー・ローボート体験</li> <li>海岸清掃</li> <li>海の生き物観察（岩場）</li> <li>魚掴み体験</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症予防としてこまめな水分補給を呼びかける。</li> <li>・カヌー・ローボート・SUP 体験を通して、海での危険とともに楽しさを体感させる。</li> <li>・砂浜や岩場にどうしてゴミがあるのかを考えさせる。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂や岩の間、木の下に多くの漂着物があることに気づき、自分事の問題としてとらえることができる。</li> <li>・マリンスポーツを楽しむことができる。</li> </ul> <p>【外部連携】</p> <p>B&amp;G 家島海洋センター、家島漁業協同組合</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業体感学習</li> <li>漁業見学船に乗船</li> <li>海底漁礁についての講義</li> <li>底引き網漁見学</li> <li>魚の仕上げ体験</li> <li>中間育成場見学</li> <li>製氷冷蔵庫見学</li> <li>稚魚放流体験</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・播磨灘の漁業について補足する。（ビデオ鑑賞）</li> <li>・漁具など危険なに注意させる。</li> <li>・中間育成所見学、製氷冷蔵庫見学などの施設が地域の漁業に寄与する点を考えさせる。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁業に携わる方々がどのような思いで仕事をしているのか考えることができる。</li> </ul> <p>【外部連携】</p> <p>坊勢漁業協同組合</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚さばき体験</li> <li>1～3年生</li> <li>魚さばき見学</li> <li>4～6年</li> <li>魚さばき体験</li> <li>調理</li> <li>全児童</li> <li>試食及び講話</li> <li>片付け</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策のための換気、手洗いを徹底する。</li> <li>・包丁や調理器具の安全な使用方法について指導を行う。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚のよさに気づき、魚の調理に関心をもつことができる。</li> </ul> <p>【外部連携】</p> <p>兵庫県漁業協同組合連合会</p>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

家島の海で楽しみながら、現状を知ろう

- ・海洋アクティビティ体験を通して、ふるさとの海の魅力にふれる。
- ・漂流ゴミの清掃を通して、ふるさとの海の現状を知る。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 本日のめあてをたしかめる 開会あいさつ 校長 本日の流れとめあてを聞く</p> <p>2 活動に向けて準備体操を行う</p> <p>3 砂浜に向けて出発する 低学年はローボートに乗船 中高学年はカヌーに乗り出航</p>  <p>4 ごみの分別についての説明を受ける ・諸注意 ・分別について</p>  <p>5 魚つかみ体験を行う ・グループごとに分けて取り組む。 ・魚をおいしく食べるために活締めや氷締めがあることを知る。</p>  <p>6 本日のふりかえりを行う ・ゴミが多いことが悲しかった。 ・はじめてカヌーにのって楽しかった。 ・魚を捕まえるのが大変だった。</p>	<p>・活動の目的や意図を全体に伝え、活動を楽しむだけでなく、活動で気が付いたことや疑問に思ったことなどを調べ学習へつなげることでより有意義なものになることを伝える。</p> <p>・熱中症に気を付け、こまめな水分補給を呼びかける。</p> <p>・B &amp; G 家島海洋センターの指導補助を行う。</p> <p>・水上監視を徹底する。</p>  <p>・安全のため、海洋廃棄物や危険な漁具には触らないことを指導する。</p> <p>・事前の活動で清掃した浜との違いを問いかけることで、共通点や相違点を見つけさせる。</p>  <p>・魚を締める意図を伝える。</p> <p>・棘や鋭利な部分に気を付けて捕まえるようにさせる。</p>  <p>・B &amp; G 家島海洋センターや、家島漁協協同組合の協力で実施できたこと、地域の方々にお世話になっていることを伝えることで、自分達の学習を支えて下さっている方がたくさんいることに気付かせる。</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

「海にふれる」活動は、児童にとって身近で当たり前の海ではある。しかし、児童の生活経験には、大きな差があった。教師が期待していた以上に子どもたちの喜びや感動は大きかった。

アクティビティ体験とともに実施した魚つかみ体験では、普段は魚を食べたがらない児童が、迎えに来た母親に「帰ったらすぐに料理してほしい」と懇願している姿もみられ、自分との関りをきちんと持つことが食べ物に対する姿勢を変えることにつながるのだと感じた。

また、何よりも子ども達にとって心に残ったのが漂着ゴミの回収であったと考える。砂や岩の間、木の下から出てくるゴミが増えるにつれ子ども達は口数が少なくなり、真剣に取り組む姿が見られた。

今回の活動を通して今後展開していく新たな学びへの礎になるとともに、ふるさとへの愛着を強めるきっかけとなった。

### 4. 今後の課題

今年度から開始した海洋教育プログラムは、児童の学びを自分事の学びへと変えていくきっかけになることを期待して導入した。1年間の取り組みをふり返ると、総合的な学習「家島うみの時間」は、児童の学びの意欲を高める上で大きな役割を果たしたと言える。

全校で統一したテーマに取り組むことで、児童、職員共に、海に関わる情報を意識するようになり、共通の話題について語り合う場面が増えた。また、調べ学習では、地域の方や保護者、関係機関へのインタビューや海洋生物の観察や実験がしやすく、児童の意欲が学習の成果に反映されやすいという利点があった。さらに、1人1台のchromebookを、インターネット検索だけでなくアンケートの集計や発表スライドの共同編集に活用することで、自分の気づきや学びをスムーズに共有することが出来た。各教科で習得したことを活用する機会も多く、家島うみの時間の探究活動に効果的につなげることができたのは、大きな成果だと感じている。

来年度への課題としては、学びが楽しいと感じる場面をどのように増やしていくのかだと感じている。そのためには、「自分事」を増やす取り組みの継続と、児童の素朴な疑問を大切に、探究する喜び、分かる喜びにつなげていくことが大切になる。やらされている学習、教えられる授業からのからの脱却が急務である。児童の思いに寄り添い、地域の声に耳を傾けながら、学ぶ喜びを共に味わう職員集団を目指し、地域理解と授業研究に取り組んでいきたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・熱中症対策の徹底
- ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策
- ・海洋漂着物等で危険なものについて触らないなどの指導の徹底
- ・毒や棘がある生物がいることや注意する等の指導

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。